「 貧困は、なぜ起こるのか　～食から見た貧困～ 」

経済学科　３年

三尾　晶子

＜論文の要旨＞

本論文の目的は、ゼミ大会でのご指摘を踏まえたうえで、途上国の貧困の原因を食の観点から経済統計学的に分析し、貧困を減らす方法を提示することである。

回帰分析の結果、栄養不良人口率と貧困率にはかなり高い相関があった。つまり、貧困率が高い国のほとんどは、恒常的に食糧不足という問題を抱えており、貧困について考える上でこの問題は不可避であるということである。

その原因として、第一次産業としての農業の未熟さがあるという仮説を立て、一人当たり穀物生産量（穀物総生産量 / 農業における経済活動人口）、1ha 当たり穀物生産量（穀物総生産量 / 穀物用農地面積）を算出し、それぞれ栄養不良人口率、貧困率と回帰分析を行った。その結果、貧困率が高い国では農業が未熟である事が立証された。

では、なぜ農業が未熟なのか。その原因として、以下の３つを仮定し、検証した。（１）自然環境が農業に適さない。（２）紛争の影響で農業ができない。（３）インフラが未整備で生産効率が悪い。（１）について年間平均降水量と一人当たり穀物生産量を回帰分析し、気候区分と照らし合わせた結果、熱帯気候や砂漠気候にある国で生産効率が悪い事がわかった。（２）については、カンボジアとベトナムの地雷を例にあげて土地利用が出来ない事、ルワンダを例にあげて経済活動人口の減少を示した。また（３）については、安全な水が得られる人口割合と一人当たり穀物生産量、100 平方 km あたりの道路密度と 1ha 当たり穀物生産量を、それぞれ回帰分析した結果、インフラが整っていない国では農業の生産効率が低いことを立証した。

しかし、この３つを解決するためには資金が必要であり、貧困率が高い国の自助努力だけでは限界がある。よって、MDGs でも叫ばれている通り、長期的観点を持った先進国のサポートが必要である。貧困国にとって身近な問題である食糧不足を、農業の観点から根本的に解決していけば、貧困を削減する事ができるのではないだろうか。